

さすがの一言！

「あきらめない人になってほしい。大変な時も自分がすべきことを最後までできる強さをもってほしい。

最強の選手ではなく、最高の選手になってほしい。最高の高校生になってほしい。競技が強いのはもちろんだが、心もまた強い人になってほしい。つい弱い自分の心に負けて、やるべきことをやらなかったり、ごまかしたりせずに、立派な挨拶、整列、聞き方、行進など、大事なことがきちんとできる選手として高校生として、最高の舞台で最高の選手として、虹色の輝きを放ってきてください。」

『第 25 回長崎県障害者スポーツ大会』、『令和 7 年度(第 77 回)長崎県高等学校総合体育大会』の『選手壮行会』(生徒会主催)で私が贈った言葉です。もちろん、応援する在校生に向けた言葉でもあります。

5/25(日)に開催された『第 25 回長崎県障害者スポーツ大会』では、学校エントリーの陸上選手(高等部)、個人エントリーの陸上、卓球、水泳、ボッチャに出場した各選手(高等部、中学部)が、また初出場を果たした選手も、熱戦を繰り広げ、好成績をおさめることができました。

そのようななか、陸上競技はトランスコスモススタジアム長崎で開催されました。昨年度と違っていたことは、各選手団待機場所が、所属名入りのプレートで指定されていたことです。その日の競技最終種目は、「4×100m男女混合リレー決勝」でした。予選を1位で突破した虹の原チームが見事に優勝しました。それで浮足立っていないのが、さすが虹の原の生徒たち、と感じ入るエピソードがありました。

表彰式終了後、虹の原の待機場所・応援場所が散らかっていないか、ある選手の行動をきっかけに自主的な点検が始まりました。全力を出し尽くした後でも立つ鳥跡を濁さず。

最高の舞台で、最高の選手として虹色の輝きを放った生徒たちを誇りに思いました。点検後、ある生徒から、さすが！の一言が繰り出されました。

『細かい砂ぼこり、掃除機で吸いたいですね。』

5/30(金)、『令和 7 年度(第 77 回)長崎県高等学校総合体育大会』が開会します。再び、最高の選手として虹色に輝くみなさんの活躍を心から期待しています。



『令和7年度 学校経営方針』で、「めざす児童生徒像」に「夢や願いの実現に向けて粘り強く取り組む子ども」、「自律心をもち主体的に行動する子ども」を掲げています。

「聞く力」、「創る力」、「繋がる力」を大切にして魅力ある虹の原の教育を展開する

- 「R7年度 学校経営方針」でめざす！ -